

R小学校（特別支援学級）

【学校の概要】

R 小学校は、旧市街地北部にある学校で、10 年前に新校舎に建て替えられた。学級数（平成 26 年 4 月 8 日現在）は通常の学級が 13 学級、特別支援学級が 3 学級（知的障害、自閉症・情緒障害、肢体不自由）である。言語障害の通級指導教室がある。近隣に幼稚園・保育園が多く、毎年 30 近くの園から児童が入学する。通常の学級には、発達障害の児童や、発達障害はないが何らかの支援を必要とする児童も多く在籍する。ICT に関わる校務分掌としては「情報教育・視聴覚教育」があり、教員 2 名が担当している。ICT に関わる研修を定期的実施しており、それを通じて自作のデジタル教科書も作成している。校内には大型ディスプレイ（各教室）や書画カメラがあり、デジタル教材や児童の作品、写真等を拡大表示するなど、普段から授業で積極的に活用している。コンピュータ室には 21 台のコンピュータがあり、総合的な学習の時間などで学級の全ての児童が利用できるようになっている。

学校では「わかりやすい授業づくり」に取り組んでおり、平成 27 年度は「ICT の活用」をテーマにしている。また、指導案に ICT の観点を盛り込むなど工夫して研究を進めている。

【特徴的な点に関するまとめ】

対象児童は、活動への参加や関わりが受け身になりがちであることから、近隣の大学（相談担当）や特別支援学校に配置された OT などの専門家とも相談しながら、コミュニケーション能力を改善するために ICT の活用を試行し、検討している。昨年度は近隣にある大学の学生が中心となり、会話の補助具としてオリジナルのキーボードの使用を試みた。今年度はスイッチ（Let's チャット）を使った文字の操作を検討している。

本事例では、大型ディスプレイを利用して教科書の内容を映し出し、音声読み上げ機能などを活用しつつ、教員と内容について確認をしながら授業を進めていた（図 4-3-9）この他にも、大型ディスプレイの活用方法としては、行事などの事前学習や活動の振り返り学習などを行っている。また、教科学習では、市販のデジタル教科書を活用している。映像や音声などの情報をわかりやすく、適切な位置に提示することで、姿勢保持や視線確保が可能になり、活動への集中力や学習意欲を高めることができていた。

【特徴的な事例】

（1）児童生徒が参加する授業

- ①教科名等および単元・題材名等 国語「注文の多い料理店」
- ②授業の目標および観点別学習状況の評価の観点
文章表現や登場人物の心情の変化について考える。

（2）児童生徒の実態

- ①学年 5 年生

②指導の場 肢体不自由特別支援学級

③児童生徒の障害および課題（特性・ニーズ）

対象となる児童の障害は、「肢体不自由」である。痙直型四肢麻痺があり、食事や排泄など、生活全般で介助を必要とする。全般的な知的発達に遅れはなく、身振りや顔き動作により意思表示ができる。また、文字盤を利用しての言葉によるコミュニケーションが可能である（ただし、運動精度や所要時間など、実用面で課題がある）音声によるコミュニケーションは難しい。

(3) ICT 活用について

①使用した支援機器・教材の名称

大型ディスプレイ、ノート型コンピュータ、デジタル教科書

②活用のねらい

関心・興味を引く。視覚・聴覚の情報をわかりやすく、適切な位置に提示することで、姿勢保持や視線確保が可能になり、活動への集中力を高める効果や学習への意欲を高める効果が期待できる。

③授業における支援内容

手元に置いた教科書に加えて、前方に置いた大型ディスプレイにデジタル教科書の内容を映し出し、視覚・聴覚に訴える情報提示の仕方を取ることで、対象児童にとってわかりやすく指導を展開していた。また、適切な位置に提示することで、姿勢保持や視線確保が可能になり、活動への集中力や学習への意欲を高めていた。

④ ICT 活用による児童生徒の変容や評価

対象児童の視線の高さに合わせて情報を提示することで無理な体勢を取らずに学習することができ、姿勢保持や視線確保が可能になっていた。また、そのことにより、児童が学習に集中できていた。

(玉木宗久、西村崇宏)



図 4-3-9 大型ディスプレイに教科書の内容を表示させている様子

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「C-94 障害のある児童生徒のための ICT 活用に関する総合的な研究－学習上の支援機器等教材の活用事例の収集と整理－」（平成28年3月）、110-111に記載された内容である。